



気温の上昇に伴う病害虫の発生増加に注意しましょう。

予想期間 3月中旬～4月上旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**少ない**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は少ない(-)。
 - ・向こう1か月の気温は高い(+)、降水量は平年並か少ない(±～-)、日照時間は平年並か多い(±～+)。
- (3) 対 策
- ・株が軟弱徒長すると発生しやすくなるため、適正な温度管理やかん水を行う。
 - ・発病前からベルコートフロアブル(RAC コード F:M7)等を予防的に散布し、発生が見られたら、パンチョ TF 顆粒水和剤(F:U6、F:3)等を散布する。葉裏まで十分に薬剤が付着するようにいねいに散布する。
 - ・曇雨天時にはくん煙剤の使用が有効だが、硫黄くん煙剤は天敵に悪影響を及ぼす可能性があるため、天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。
 - ・紫外線(UV-B)の照射は、本病の発生抑制に効果的である。
 - ・薬剤耐性菌が発生しやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

2 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比81%、株率：平年比150%)(±)。
 - ・向こう1か月の気温は高い(+)、降水量は平年並か少ない(±～-)、日照時間は平年並か多い(±～+)。
- (3) 対 策
- ・多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、適切な水管理を行う。
 - ・発病した果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・予防を主体に、ベルコートフロアブル(F:M7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考
- ・[灰色かび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比103%、株率：平年比155%)(±)。
 - ・向こう1か月の気温は高い(+)、日照時間は平年並か多い(±～+)。
- (3) 対 策
- ・施設内外の雑草は発生源・増殖源となるため除草を徹底する。
 - ・花を良く観察して、アザミウマ類が見られた場合には、マッチ乳剤(I:15)を散布する。
 - ・花の1割以上にアザミウマ類が見られる場合には、ディアナSC(I:5)等を散布する。
- (4) 備 考
- ・[防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は多い(ほ場率：平年比198%、株率：平年比200%)(+)。
 - ・向こう1か月の気温は高い(+)、日照時間は平年並か多い(±～+)。
- (3) 対 策
- ・ほ場をよく観察し、アブラムシ類の発生を確認したら早急に防除する。マルチ上の甘露や白い脱皮殻は発生の目安となる。
 - ・茎葉が繁茂すると薬剤がかかりにくく、防除に失敗しやすくなるので、葉かき後に薬剤を散布する。
 - ・発生を確認したらチェス顆粒水和剤(I:9B)等を葉裏にもよくかかるように散布する。コレマンアブラバチ等の天敵製剤を使用する際は、アブラムシ類の密度が高いと抑制までに時間がかかるため、低密度のうちに導入する。また、導入後はこまめにアブラムシ類の発生か所を観察し、マミーができていることを確認する。
- (4) 備 考
- ・[ワタアブラムシに対する主要薬剤の殺虫効果](#)を当センターHPに掲載中。

5 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比 83%、株率：平年比 137%）（±）。
・向こう 1 か月の気温は高い（+）、日照時間は平年並か多い（±～+）。
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布するとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・天敵の追加放飼時にハダニ類が多いと失敗しやすいため、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の密度を下げしておく。
- (4) 備 考 ・[ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

6 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 53%、株率：平年比 40%）（-）。
・向こう 1 か月の気温は高い（+）、降水量は平年並か少ない（±～-）、日照時間は平年並か多い（±～-）。
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・曇雨天が続くとハウス内が多湿となり、本病の発生リスクが高まるため、注意する。
・発病した果実や葉等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防を主体に、セイビアーフロアブル 20 (F:12) 等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・[灰色かび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

7 トマト コナジラミ類（黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV)）

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在のコナジラミ類の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 111%、葉率：平年比 550%）（+）。
・向こう 1 か月の気温は高い（+）、日照時間は平年並か多い（±～+）。
- (3) 対 策 ・コナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窗）に 0.4mm 目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
・黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の早期発見に努める。
・黄化葉巻病の耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。
・発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・[防除のポイントNo22、タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

8 たまねぎ べと病

- (1) 発生予想 発生量：**少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない（-）。
・向こう 1 か月の気温は高い（+）、降水量は平年並か少ない（±～-）、日照時間は平年並か多い（±～-）。
- (3) 対 策 ・雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
・発病株は伝染源となるので、速やかに取り除き、ほ場外で処分する。
・予防を主体にジマンダイセン水和剤 (F:M3) 等を散布する。発生が見られる場合は、オロンディスウルトラ SC (F:49、F:40) 等を散布する。曇天雨が続きと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。

9 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
きゅうり	べと病	平年並	平年並	きゅうり	コナジラミ類	平年並	やや多
	うどんこ病	やや多	やや多	きく	アザミウマ類	やや多	多
	褐斑病	平年並	平年並		ハダニ類	やや少	平年並

季節の病害虫防除対策

○水稲の種子伝染性病害の対策について

- ・種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

・近年、特に育苗期間中の高温が原因と考えられる病害（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など）の発生がみられていますので、適正な温湿度管理に留意しましょう。

○水稻の病害虫対策について

・水稻の播種時から移植当日に箱施用剤を適切に使用し、病害や害虫を防除しましょう。病害虫の発生状況を考慮して適切な薬剤を選定しましょう。

○麦類赤かび病

・赤かび病は予防が重要です。出穂や開花の時期を逃さず、適期に赤かび防除を行いましょう。薬剤散布日の選定に当たっては、天候に注意しましょう。

○いちごの親株定植準備について

・親株は無病の専用株を用い、萎黄病や炭疽病を持ち込まないよう注意します。親株床は、連作にならない排水の良いほ場を選び、必ず土壤消毒を行います。

○ナシ黒星病の春期防除を徹底しましょう

・本年の幸水の開花始は4月14日であり、平年より1日早く、昨年より4日早い予測です。また、豊水の開花始は4月12日であり、平年より1日早く、昨年より4日早い予測です。[ナシの開花予測2月26日現在](#)を当センターHPに掲載中。
・黒星病の第一次感染時期であるりん片脱落期から開花後は最重要防除期です。果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に予防効果の高いDMI 剤を散布しましょう。[ナシ黒星病菌の薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

○施設の微小害虫の増加に注意

・気温の上昇に伴い、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類などの微小害虫が増加しやすい環境となります。施設内をこまめに観察し、発生を確認したら早急に防除しましょう。施設内外の雑草は微小害虫の発生源となるため除草しましょう。

○トマト等のトマトキバガについて

・トマトキバガが発生しています。被害の発生を防ぐため、ほ場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めましょう。
・本虫の生態や防除対策は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の[トマトキバガ防除対策マニュアル - 基本情報編 -](#)、当センターの[令和7（2025）年度植物防疫ニュース No. 3](#)で御確認ください。

農薬の安全使用等

○薬剤抵抗性発達の抑制

・薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

・花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○農薬適正使用の徹底

・農薬は適正に保管・管理しましょう。
・農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
・薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

1か月気象予報（予報期間3月14日から4月13日 3月12日 気象庁発表）

- ・向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・向こう1か月の降水量は平年並みか少なく、日照時間は平年並みか多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	20	70
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧いただけます。

